

【建設工業新聞 令和3年1月13日】



年頭所感

振り返りますと、昨年は7月に九州地方で記録的な大雨が降り、鹿児島県、熊本県などで甚大な被害が発生し、多くの人が避難を余儀なくされました。例年と違うのは、新型コロナウイルス感染症の拡大のさなかにおける災害と避難行動だ

つたということです。感染症拡大を防止するために、避難所の収容人数を制限しなければなりません。このため避難所に行つても、入れないという状況も発生しました。体調の悪い人が

きる、避難所用のパーティション「KAMIKABE（かみかべ）」を作成しました。避難所・避難生活学会の基準に基づいた設計により、プライバシーと感染症対策を両立させたパーティ

本的に見直す必要があると言われています。そして、新たな計画に基づく「防災・減災、国土強靭化」の施策を継続して推進することが非常に重要なことだと考えていきます。

限界工事量を確保

群馬県建設業協会会長 青柳 剛

来るケースも考えられますし、自治体の担当の人たちは細心の注意を払い、本当に大変だったと思います。

当協会では、自然災害とコロナ禍という、複合的な災害における避難に対応で

イションで、県内の市町村などで組み立て訓練も行いました。

様式も、コロナ後の新しい生活様式、いわゆる「ニューノーマル」への転換が必要になります。各企業が経営の安定を図り、限界工事量を確保できるよう、協会活動を進めてまいります。